(第三種郵便物認可)

説明会が行われた後、午後

きるコーンクラッシャ『H

砕砂を高いレベルで生産で

ビス部技術チームリーダー

リースシステムの採用⑤ラ 生を低減させたトランプリ

ラシックHP (HP10・200

その後、パドゥン氏はク

300)と新世代HP(HP

の設置一の八つをあげた。

ャーカバー(オプション)

などの機器から作業員の安

なっていたアキュムレータ 性の向上⑧従来むき出しに

全を確保するためクラッシ

3・4・6) との性能比較

ストの低減も図れるとした

変更したが、その結果▽生

産能力が七五%向上▽一〇

○『の生産量が倍増▽動

HP20からHP3に機種を

この砕石場では

量が減らせるため、生産コ

摩耗やトンあたり消費電力

を説明。この中で、HP3

―表参照―。

さらに、パドゥン氏は海

め厚肉ライナーの採用⑥ラ イナーの長寿命化を図るた

イナーのバッキング材が不

は「サイズが小型にもかか

式の採用④タッピングの発 ランピング・チャンバー方 減少し低圧運転が可能なク 式として部品点数が大幅に 取り付け③クランピング方 摩耗を防ぐためにカバーの 載②カウンターウェイトの

・横田健二氏)―の講演が

要な構造に改善することに

に岩手県釜石市の㈱釜石砂

P3やメッツォ社製機器の

小さなヘッド径で高い生産性

石灰石鉱山関係者、販売店関係者など約六十人が参加、HP3の概要説明が行わ 始した新型コーンクラッシャ 「HP3デモ見学会」 を開催。 当日は砕石事業者や 県釜石市の㈱釜石砂利建設(平松眞紀子社長)において、昨年から国内販売を開 れたほか、実稼働状況の視察を行った。 宇部興産機械㈱(久次幸夫社長)は四月十七日、盛岡市内のホテルおよび岩手

岡市内のホテルにおいてH 見学会では、午前中に盛 カルロス・パドゥン氏 地見学会は前身の宇部テク 増加することが予想される ダー・高木万寿夫氏が「現 ため、今年度は2005と を受け、砕砂の需要が今後 本格化やオリンピック開催 四回目となる。震災復興の ノエンジから数えて今回で に向けたインフラ整備など ||宇部興産機械㈱産機サー シャHP3の実績紹介(同 ン氏)③新型コーンクラッ 〜生産性の創造 (同=メッ 博氏)②技術講演・HP3 産機サービス部機器販売推 進チームリーダー・浜新正

行われた。 メンテ性が向上

上のボールライナーの取り

べて多く、小さなヘッド径

量は同じ動力のHP30と比 わらず、一〇一〇『の生産

る効果としてスペインのユ 外におけるHP3導入によ

力消費量が一四%減少>偏

よる環境保護と保守性の向

を説明。この中でパドゥン 氏は、HP3について「安 HPコーンクラッシャシリ 全・環境に対する配慮を基 本コンセプトに開発された このうち、メッツォ社の ドゥン氏がHP3の概要

日

砕機グループグループリー 産機械㈱産機サービス部破

(講演者=宇部興産機械㈱ HP関連納入実績の紹介

HP3を導入 釜石砂利建設

優れた粒形を実現

・ンクラッシャ「HP3」

一ズの新世代機であり、少

本

説明会では冒頭、宇部興

続いて、①二〇一三年度

移動しHP3の実稼働の状 利建設大曽根工場にバスで

考にしてほしい」とあいさ

こととした。ぜひ事業の参

P3』の見学会を開催する

で生産性の向上を図った機 ない動力で稼働でき、粉じ 比、エネルギー効率の改善 高い粒子間破砕が可能とな 能を向上させることによっ 力、破砕力の三要素が重要 るためにはストローク、動 力で高い生産性を発揮させ 械となっている。少ない動 く、従来機と同じヘッド径 を実現した」と述べた。 て破砕室内の密度を高め、 たが、HP3はこれらの性 んや騒音の発生量も少な む会社として創業したが、 砂の生産状況を視察した。 十年七月に砂利採取業を営 釜石砂利建設社は、昭和四 力岩を原料に2005と砕 れ、参加者は硬質砂岩と輝 今回見学会が開催された



優れた生産性を発揮する新型コ

行っているという。

√用骨材▽路盤材▽その他 同社の生産品目はマ生コ

製品については原石山に移 る。また、生コン用以外の プトラックで運搬してい

新を行ってこなかったこと 況によってこれまで設備更 復興工事に伴って砕石・砕 百二十少だった。 東日本大震災の

時間当たり生産量1.7

倍

動しHP3見学会が行わ 石砂利建設大曽根工場に移 砂岩だが、大曽根工場には ラント。同社の原石は硬質 なってきたことを受け、砕 五き離れた原石山からダン した生コン用骨材の生産プ 生産設備しかないため、約 年一月から製品出荷を開始 十三年十一月に開設し、 石業に転じた。 に伴い砂利の採取が難しく 同社大曽根工場は昭和六 갶 (捨て石、裏込材など)―で を設置し、生コン用砕石・ イラディスク(四十八だ) %などとなっている。 あり、出荷比率は生コン用 その時間あたり生産量は約 砕砂の生産を行ってきた。 ッシャ、二次破砕機にジャ 次破砕機にC10ジョークラ が五〇%、路盤材用が三五 大曽根工場はこれまで一 したと説明した。 クに代わり、HP3を導入 昨年十月にジャイラディス ればならなかった」とし、

砕砂は2倍に

る成果を得た。また、セッ ンパクトになった一方で、 一・七倍の二百シに増加す ヘッド径が従来機と比べコ 社では、機械サイズおよび HP3の導入により、 非常に良い機械だと思う. 導入後六カ月が経過した 実績が出ている。また現在、 場長も「当初は生産量が一 が、大きなトラブルもない。 思っていたが、それ以上の 0~三0%増えればいいと

時にヘッドの空回りを防止 として①原石が空になった するアンチスピン装置の搭 付け方法の改善による保守

生産された2005(上)と砕砂(下)



が得られたとした。 稼働率の向上―などの成果 ダー率(八一%)の実現▽

ナー交換の時間短縮に伴う バッキング材未使用・ライ

生産効率が向上している。 である。リターン量もHP こうしたことから生産工程 30と比べて減少するため、 らすことも可能だ」と説明 における破砕機の台数を減 したほか、スクリーン網の 本体価格 比率 生産コスト /運転時間 比率 消費(定格) 動力比率 10-0生産量 比率 種類 143142 130 127 144 88 (315kw 100 100 100 100 (220kw 100 97 78

 ${\rm HP}\,4$ HP300 ${
m HP}~3$

ント改善▽高いセットアン る (一台稼働、二台受注) 状況下において、そうした 可欠な骨材を供給している 込まれたが、復興工事に不 平率(粒形)が三~四ポイ 事態は何が何でも避けなけ が高まっていたという。同 **産が難しく、設備の老朽化** 仮に機械が停止した場合 社の藤原昇取締役工場長は に伴う破砕機の故障リスク には長期間の生産停止が見 なっている。 %▽砕砂が五六・○%―と 率は▽2005が五八・八 5の生産量が一・五倍の九 されたことにより、200 が従来機に比べ二〇%改善 した。製品の粒形判定実積 は約二倍の二十八ヶに増加 十少に増え、砕砂の生産量

稼ぐのかと少し不安だった 機械が本当に (生産量を) 3を見た時はこんな小さい と仕事をする。 非常に満足 している」と話し、 平松社長は「初めてHP いざ稼働するときちん 進化は常にメッツォから

本では三台が販売されてい 界で六十一台。このうち日 数(今年一月現在)は全世 されているが、その販売台 類を用意している。 コース・エクストラの四種 ♡▽HP6が四百五十き♡ 売ッ▽HP4が三百十五き トラファイン・ミディアム・ 一で、ライナーにはエクス HP3は二年前から販売

産機サービス部破砕機グループ / 〒755-8633 山口県宇部市大字小串沖の山 1980 番 TEL(0836)34-5942 FAX(0836)22-6110

た、各機種のモーターサイ 説明し、今年中にHP5を て▽HP3▽HP4▽HP コーンクラッシャHPシリ ズは▽HP3が二百二十五 開発する予定だとした。 ま -ズのラインナップについ このほか、同氏は新世代 -の三機種があることを metso metso HP3 コーンクラッシャの最先端技術 ●高品質の骨材を大量に生産 閉回路運転とチョーク運転により、粒形の優れた骨材を生産 ●適用範囲が広い 2次破砕機から砕砂機まで適用可能 ●良質な砕砂を生産 閉回路運転とチョーク運転により、実績率の優れた砕砂を生産 ●保守が容易で休止時間を短縮 ・バッキング材不要により、ライナ交換後直ぐに運転可能 ・ライナ交換が簡単(新機構によるライナ取付方法の採用) ・機械上部から全ての保守が可能 ・エアーブロアによるクラッシャ内部へのダスト浸入防止 ●設備の合理化 高破砕性能によりクラッシャ台数を削減 サイモンズコーン UBC 宇部與產機械株式会社